



こどもから始まる みどりから始まる
～生きる根っこを育む保育～



園長日記 第3回 自然の恵み①<そら豆体験>

さあ、今年もそら豆の収穫の時期がやってきました。

宮崎学園短期大学との連携で、今年は短大農場でのそら豆収穫が体験できました。短期大学では、毎年、学生さんが畝を作り、苗を植えて、そら豆を育てて下さっています。「お空に向かってお豆が育つ、だからそら豆って言うんだよ」と、子どもたちは短大の矢田教授から教わりました。「さやが下を向いたらお豆が育っているから下を向いたのを取ってね」と教えて頂きました。



年中さんが収穫したそら豆と、枝と根っこのついたそら豆もいただき園に持ち帰りました。園に戻ってからの活動は、年齢に合わせて展開されました。

0歳児は、じーっと不思議そうに観察していました。1歳児、2歳児は、観察して、

触ってみて、匂いを嗅いでみたあとで、収穫のお手伝いをしました。

年少児は、「そらまめくんのベッド」の音付け絵本を聞き、枝付きの状態からそら豆を収穫し、さやからそら豆を取り出しました。さやをむくと…「わー！ふわふわベッド」と大歓声。その後は、そら豆を画用紙に描いて表現することを楽しみました。また、お花紙に色をつけ、それをまるめてお豆も作り飾りました。自分のお豆ができて嬉しそうにする姿が見られました。



年中児は、「そらまめくんのベッド」の絵本を読んでもらって、短大の畑にバスで出発しました。1日目は短大での収穫体験。2日目はさやからお豆を取り出す体験。4日目は何と、グツグツのお湯にそら豆を入れ、待つこと数分、小さいカップにほっかほっかのそら豆3粒を入れてもらい、みんなで「ありがとう」の心でいただきました。食べる前に薄皮をはぎ、プリッと出てきたそら豆に「わー！出てきた！美味しい、苦い、おかわり」等々、感動がたくさん子どもたちから生まれていました。きっとご家庭でもそら豆のお話が弾んだことと思います。



年長児は、昨年の経験を踏まえて収穫を楽しむ姿が見られました。ベランダいっぱい
に並んださやつきそら豆を上手にすばやく収穫し、さやから豆を取り出していました。
そして、年中児と一緒にホカホカのそら豆を頂きました。

4日間くらいをかけて、じっくり取り組んだそら豆の活動は、各年齢の子どもたちに
大きな感動をもたらしてくれました。今年は、昨年度から進展し、園で湯がいて食べる
という食育に発展しました。子どもたちは、自然の恵みを五感で感じる事が出来たと
思います。

そら豆を苗から大きく育ててくれた短大生、ご指導をいただいた短大の矢田教授、連
携に協力いただいた宮崎学園短期大学に感謝申し上げます。

(2023. 5.5 園長 山下恵子)